

## 鹿児島県教育委員会賞

### つぎは、ぼくのぼん

鹿児島大学教育学部附属小学校 二年

川畑 りく



「いたい。ちが出てる。どうしよう。」  
いたくて、なみだが出てきました。

「早くせんろをわたらないと、つぎのでん車がくる。」  
と、あわててはしって、せんろにつまづいてしまいました。

「だいじょうぶ。」  
しらない男の人のこえがきこえてきました。そのこえに、ぼくがびくくとしていると、  
「つよいね。」

と言いながら、男の人は、ぼくを車やでん車のこないところにつれていきましました。びっくりしてかおを見ると、にこつとわらった中学生のお兄ちゃんでした。お兄ちゃんは、かばんからぼんそうこうをとり出し、ぼくの足にそうつとつけてくれました。いたくてなみだが出ていたぼくは、お兄ちゃんにまほうをかけられたみたいに、いたい気もちがすうつとなくなりました。

「わかれみちまでいっしょに行こう。」  
と、お兄ちゃんがぼくの手をぎゅつとにぎってくれました。ぼくの心は、ぼかぼかになりました。えきから学校までのくらい一本みちが、今日はとてもたのしく、元氣が出る一本みちになりました。

いえにかえって、あさのできごとをかぞくに話しました。  
「しらないぼくに、どうしてぼんそうこうをつけてくれたんだろう。」

とふしぎに思っていたぼくに、母は、  
「こまっている人をたすける中学生は、とてもかっこいいね。りくもそんな人になってほしいな。おれいは、つたえたの。」  
と言いました。

「しまった。ありがとうって言えてないや。こんど、お兄ちゃんにあつたら、お手がみをわたそう。」

かみいっばいに、ぼくのうれしい気もちを書きました。

「お兄ちゃんへ。あさ、ぼくをたすけてくれてありがとう。ぼくは、とてもうれしかったよ。ぼくも、こまっている人がいたら、たすけてあげるよ。お兄ちゃんみたいな人になりたいな。」

次の日、えきのホームでお兄ちゃんを見つけ、手がみをわたすことができました。

「ありがとう。あとでゆつくりよむね。」

お兄ちゃんは、にっこりわらつてうけとつてくれました。

「ちゃんとおれいの手がみがわたせた。」

ぼくの心の中のもやもやが、すつきりして、ぼかぼかになりました。

あの日から、ぼくとお兄ちゃんは、つう学と中に、あいさつをするようになりましました。そして、ぼくのいき入れには、三まいのぼんそうこうが入っています。まい日ていき入れのぼんそうこうを見ると、お兄ちゃんを思い出し、  
「つぎは、ぼくのぼんだ。」  
しんせつのおかえしをしようと思うのです。

#### 【審査評】

この作文を読んで、中学生のお兄さんの優しさに心がぼかぼかになりました。転んで、いたくて、心細かったりくさんでしたが、お兄さんの心づかいとその後の関わりが素晴らしいですね。そして、定期入れに入れている三枚のぼんそうこうが、お兄さんの親切 तरीくさんの決意をうまく表現しています。二年生らしく、順序よく組み立てていること、読む人に分かりやすい表現で書いていることが素晴らしいです。お兄さんのように心優しく、かっこいい人になれるといいですね。